

国営讃岐まんのう公園管理運営ビジョン検討委員会

(第2回)

<議事要旨>

■開催日時：令和6年11月25日(月)13時00分～15時00分

■会場：国営讃岐まんのう公園 総合センター

■主な意見：

1. 説明事項

(1) 説明事項①委員会規約の改定

- ・意見特になし

2. 審議事項

(1) 審議事項①ニーズ調査の結果概要と公園の利用者像

- ・Webアンケート調査のLAND分析結果より、まんのう公園の認知度向上が必要と考える。
- ・全体の7割を占めるN層の公園を知らないという課題の解決を優先すべきであり、県外客へも認知度を高めるため、SNSを活用した情報発信等に取り組んでいくことが重要。

(2) 審議事項②まんのう公園の将来像(案)

- ・満濃池の良さを来園者に体験してもらえるよう、国・県・町の連携が重要と考える。
- ・ゾーン間の連携を明記するべきと考える。
- ・本ビジョンは、今後まんのう公園の管理運営に関わる事業者等へ示すビジョンでもあるため、公園管理者の思いに加え、事業者等への期待とともに公園管理者が事業者等にできることを明確にしないと、経営面での持続性に懸念が残ると思う。
- ・「まんのう公園の果たすべき役割」は事務局案で良いと思うが、「まんのう公園を取り巻く社会情勢」と「取組方針」を結びつける整理がなされていないように感じる。コンセプトの言葉づくりの前に、公共施設として今後20年間で何を実現するのかを明確にするのが管理運営ビジョンであり、ゾーニングを行う前に、何を資源として活かすべきかを明確に示すべきと考える。そのため、本公園が果たすべき役割をもう少し具体的に示した上で、どの施設をどのように改修、管理運営するのかを整理する必要がある。
- ・果たすべき役割を具体化する中で、県・町との連携も記載できると良い。
- ・本公園は、少子高齢化が先行して進む四国地方において、地域を継続するための核となる施設であるべきと感じる。そのためには、四国地方が抱える課題を解決するために、本公園に何ができるか、何を実現したいのかをビジョンに反映していくことが重要である。
- ・広大な敷地の中で満濃池と瀬戸内海を同時に楽しめる利点を活かすべきである。この土地を守りつつ、インタープリターなど公園での活動に関わる人を増やし、ここでし

かできない体験や交流を提供することも重要と考える。気球やアートコラボも良いと思う。

- ・ターゲットをどう設定するか、既存の利用者をベースに園内消費をどれだけ増やすのかを管理運営ビジョンに示していかないと、持続可能性の確保が難しい。
- ・インバウンドの方が感じるような都会にはない地方の魅力、ここにしかない貴重な資源、四国の歴史や文化を日本人に伝えることも公共施設、国営公園の役割と考える。
- ・コンセプトは、関係者だけが分かれば良いものではないため、当初の基本計画時のコンセプトに引っ張られ過ぎず、分かりやすい表現にすべきである。
- ・公園内での活動が資源となり、活動者へのやりがいにも繋がる、0から1にも100にも生み出せる、感動を生む、パワーチャージ、といったキーワードもコンセプトを考える上のアイデアの1つとして考えみてほしい。
- ・まんのう公園で実施できるイベント等のアイデアを募集する際には、医療系や福祉系の団体の意見も聞けるとよい。
- ・香川県としては、香川県の知名度向上、観光客の受入環境の整備に取り組んでおり、県外からどのように観光客を呼び込むかという視点で連携可能と考える。香川県観光協会のHPやSNSを活用した情報発信は可能。
- ・屋外広告物の規制など景観づくりのアドバイスは可能。また、まんのう公園周辺だけでなく栗林公園等の県内の都市公園との連携も可能と考える。
- ・保安林指定区域については、適切な保全・管理が必要であるが、国・県・町が連携したイベントを行うなど、満濃池周辺一体で活性化を図りたいと考えている。
- ・まんのう町としては、コンテンツ開発や周遊歩道との連携だけでなく、大規模イベント時における本公園の周辺道路の渋滞緩和策に関する協力も重要と考える。また、名勝としての価値の向上、保全に関するアドバイス面でも連携可能と考える。

■今後の進め方：

- ・上記のご意見を踏まえ、ビジョン案の策定・検討等を進める。(事務局)

以上